

授業概要

本授業では、「教育」という事象を「社会」から見る態度を身に付けるとともに、教育社会学の方法論についての基本的な枠組みを理解する。そのために、第 10 回までは、「教育と平等」をテーマとして現代の学校教育における社会的・制度的事項の基礎的な知識を講義する。第 11 回以降は、具体的な教育社会学の方法論としての言説分析の観点から、現代の学校教育の課題を講義する。

授業計画

第 1 回	授業ガイダンス：授業内容の説明・授業方法の説明
第 2 回	教育の選抜機能：メリトクラシーとは何か
第 3 回	教育の機会均等：その理念と制度
第 4 回	教育と貧困：現状と国際比較
第 5 回	学力の獲得は平等なのか？：努力神話を問う
第 6 回	教育と社会階層：学歴と教育戦略
第 7 回	経済資本・文化資本・社会関係資本——ブルデューの再生産論
第 8 回	社会変動と能力観の変遷（1）：「新しい能力」
第 9 回	社会変動と能力観の変遷（2）：「新しい能力」は新しいのか？
第 10 回	学力格差を乗り越える：学校・地域との連帯
第 11 回	教育言説の分析（1）：ゆとり教育によって学力は低下したのか
第 12 回	教育言説の分析（2）：学校安全——組み体操をめぐる議論
第 13 回	教育言説の分析（3）：「いじめ自殺」はなぜおきるのか
第 14 回	教育言説の分析（4）：「いじめ自殺」の再生産
第 15 回	まとめ——教育の語り方を変える
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・現代の学校教育における社会的・制度的事項の基礎的な知識を身につけるとともに、関連する現代的な課題を理解できる。
- ・組織としての学校を理解し、学校、地域との連携、学校安全に関する基礎的な知識を理解できる。
- ・「教育と平等」に関する現代的な課題を中心に、その社会的・制度的な基礎的知識と組織としての学校・地域の連携などについての理解ができる。

履修上の注意

第 1 回のガイダンス授業の際に、授業内容・方法、評価方法などについて説明するため、必ず出席すること。欠席者は、履修を認めない場合がある。出席できない理由がある場合は、担当者に相談すること。

教職課程の授業のため、出席、課題の提出、授業態度、成績などは厳しい態度で評価する。教職へ向けての強い意欲と意志を求める。

授業では ICT 機器を積極的に活用すること。履修者は、ICT 機器を用意し活用に積極的に取り組むこと。

予習・復習

予習：授業の最後に次回の授業資料を配付するので、その内容について読んでおくこと。

復習：毎回の授業で出された課題を確認し、理解できていない場合は授業資料を復習し、さらに学びたい内容があれば授業資料に示した参考文献を読むこと。

評価方法

授業参画度（授業態度・授業中の発言等）＝10%、授業での提出物の内容＝30%、学期末のテスト＝60%。履修者の状況によっては、中間テストを行う場合がある。なお、教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。評価方法の詳細は、第 1 回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

毎回、授業資料を配付する。授業内容についての参考文献は、授業資料で示すので、それを参考にしてもらいたい。